

## 入院時BNPの違いが及ぼす急性期脳梗塞患者のリハビリテーション経過

この研究に関する科学的・倫理的妥当性については、当院の「臨床研究審査委員会」で審議され、その実施について病院長より許可を得ています。この研究の実施期間は、2025年10月10日から2026年03月31日までを予定しています。

### 【研究の意義・目的】

心不全患者に対する過負荷なリハビリテーションが心不全の増悪とADL低下を引き起こす可能性が高く、臨床現場ではモニタリングを行いながら負荷量の調整を行っています。一方、脳卒中患者に対しては、意識レベルや運動機能の改善を目的に発症早期より積極的な離床や歩行練習の実施をガイドラインで推奨しています。しかし、脳卒中患者の約30%に心疾患既往、40%以上の脳梗塞患者がBNP100pg/mL以上と、高い確率で潜在的な心不全を合併していると報告されています。脳卒中患者は意識障害や運動麻痺の影響により容易に過負荷になる可能性があり、積極的なリハビリテーションがADL向上の阻害因子になるのではないかと考えました。そこで今回、当院急性期病院に脳梗塞で入院した患者を対象に、入院時BNPの違いが及ぼすリハビリテーション経過を調査することを目的としました。

### 【研究の対象】

小倉記念病院において2022年04月01日から2023年03月31日の間に、脳梗塞を発症し当院入院後、保存的加療でリハビリテーション介入のあった患者さんを対象としています。

### 【研究の方法および情報の取扱い】

ご提供いただく情報は、性別、年齢、mRS（入院前、退院前）、BMI、NIHSS（入院時、退院時）、病型分類（ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、塞栓原不明）、LVEF、脳性ナトリウム利尿ペプチド、血清アルブミン、尿素窒素、血清クレアチニン、推算糸球体濾過量、血色素量、入院時・退院時FIM、高次脳機能障害の有無、言語機能障害の有無、離床開始日、歩行開始日、在院日数、心不全、心臓由来、慢性腎不全、脳血管疾患、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、呼吸器疾患、整形疾患の有無です。これらの情報は、通常の診療で得られた診療記録より抽出しますので、新たに身体的及び経済的負担が生じることはありません。

得られた情報は、個人情報漏えいを防ぐため、お名前、住所などの個人を特定する情報を削除した上で研究用の番号で管理し、当院の研究責任者・吉川和也の責任の下、保管・管理されます。また、本研究の結果について学会発表や論文掲載等を行う際は、個人が特定できる情報が含まれないようにした上で、公表します。

### 【利益相反について】

この研究は特定の研究者や企業の利益の為にを行うものではありません。また、この研究により患者さんの利益（効果や安全性など）が損なわれることもありません。

### 【連絡・問い合わせ先】

この研究や個人情報の取扱いに関するご質問やご相談等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。またご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

なお、対象となる患者さんの情報がこの研究に用いられることについて、患者さん（もしくは患者さんの代理人）にご了承いただけない場合には、研究対象としませんのでお申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

連絡先：

小倉記念病院 リハビリテーション課 担当者 吉川 和也  
〒802-8555 北九州市小倉北区浅野三丁目2番1号  
電話 093-511-2000（代）